

五高三代——龍南健兒の會（高原）

一（吝）一

五高三代——龍南健兒の會

高 原 操

敬啓

御手紙拜見仕候 龍南生活の『思ひ出』を何ぞ書いて送れとのこと候も、三十年前の苦茶す古物語よりも現代史の方が面白からうと存じ上げ、別紙より記事切抜き送付致し候

再昨年、臺灣に遊び候節も五高出身者の到るところで幅を利かせてゐるに快感を覚え候が、本秋滿洲視察旅行を試みて、更に北滿南滿に亘りて普く五高出身者の勢力偉大なるものあるに一層の快感を與へられて何とも言へぬ喜ばしさを覺へ申し候別紙は旅行の汽車中または船中から送つた『南滿はがき』の一節（大阪朝日新聞紙上掲載）在大連五高會の盛況を記したものに候 特輯記念號の埋草に役立ち候へば幸甚。

十一月十一日

五高文藝部諸子

△

▽五高三代——龍南健兒の會

十 八 公 子

高 原 操

滿鐵の本部庶務督辦、夏目漱石先生の『猫』のなかで活躍する多々羅三平こと俣野義郎君らの肝煎と勸進元によつて、僕の大連に來たのを機とし五高出身者大會が開かれた——四日の夜、某旗亭の大廣間に十五六個の牛肉燗燗鍋が、旅順山上の砲台のごとく構へられ、互ひに援護射撃の杯飛び肉躍るの壯觀、妻まじなどいふばかりなしの光景。

敢て妻まじき光景といふ。曾て熊本龍田南蠻の校舎に兎を屠りて馬肉と混煮し、赤酒をあふつて舌鼓を打つた太古創世紀（日清役前）に屬する健兒の頭は、悉く禿光燦爛たるものがあるからである。

大連を中心に附近に住するもの五十餘、そのうち太古も初代に屬する梅野（滿鐵理事）村井（滿銀頭取）らの老大を始め、中古（日露役前）の禿頭品またよく陳列され中村（謙）服部（文）當時ヨカ稚兒で鳴らした岡野（完）等僕と同時代の諸子、すでに年寄の部に加へらる。

そのほか日露戦後に生れて、太古品からいへば孫にあたる大正時代の瀟灑たる若殿原を合せて數十名が、スリー・ゼネレーションにわたる珍談奇話——『ソレぢや貴公は俺の友人の長男か……』——秋の夜長の更くるを知らぬ愉快な會に参加せしめて貰つたことを、肝煎の筆頭は多々羅三平君に深謝する。

——（一〇・五・大連にて）——